

科目名	プログラミングⅣ	英語科目名	Programming Ⅳ
開講年度・学期	平成 27 年・後期	対象学科・専攻・学年	電気電子創造工学科・3 年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	1 単位	単位種類	履修単位 30h
担当教員	飯島 洋祐	居室（もしくは所属）	電気電子創造工学科棟 3 階
電話	0285-20-2262	E-mail	yijima(@マーク)oyama-ct.ne.jp
授業の到達目標		授業到達目標との対応	
(1) アセンブラプログラムの考え方を習得すること。		⑤	—
(2) アセンブラを通してコンピュータの仕組みを理解すること。		⑤	—
(3) CASL の基本的なプログラムが組めるようになること。		⑤	—
(4) アセンブラ言語を利用した応用プログラムが組めること。		⑤	—
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
・定期試験と実習課題および課題レポートによって評価する。 達成目標 (1) ~ (2) : 中間試験の成績で評価する。 達成目標 (3) : 実習課題の達成度で評価する。 達成目標 (4) : 定期試験の成績で評価する。			
評価方法			
下記のとおり総合して評価する。 ・中間試験と期末試験の 2 回の成績の平均 (70%) ・授業時の課題達成度 (15%) ・レポート提出 (15%)			
授業内容			
1. ガイダンスおよびアセンブラ言語とコンピュータ 2. アセンブラ言語のプログラミングの基礎 (1) 3. アセンブラ言語のプログラミングの基礎 (2) 4. 記憶装置の使い方 (1) 5. 記憶装置の使い方 (2) 6. 演算処理 (算術処理) 7. 演算処理 (論理演算) 8. 中間試験 9. 演算処理 (シフト命令) 10. 条件分岐処理 (1) 11. 条件分岐処理 (2) 12. 繰り返し処理 13. 副プログラム 14. 総合演習 (1) 15. 総合演習 (2)			
キーワード	CASL、COMET、アセンブラ、情報処理技術者試験		
参考書	浅井宗海、岸田徹夫、尾川順子、「プログラミング入門 CASL II」		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	プログラミングⅠ、プログラミングⅡ		
現学年の関連科目	プログラミングⅢ		
次年度以降の関連科目	デジタル回路		
連絡事項			
・授業の終わりに、次回授業の範囲等を説明する。 ・前回の授業までの復習と、事前の予習を行っている事を前提に授業を進めるため、予習・復習をしっかりと行うこと。			
シラバス作成年月日	2015 年 2 月 25 日		